

★チャレンジ!夢に向かって★

～ふるさとを愛し、一人一人が「か・が・や・く」国見の子の育成～

自律する力を育む

12月25日（水）の昼休みのことです。2年生の〇〇〇〇さんが校長室に来て「校長先生、昼休みにバドミントンができるようにしてもらえませんか」と話しました。本校では中休みと昼休みには、体育館で遊ぶ種目は決まっています。運営委員が年度初めにその種目を決めています。そこで、私は〇〇さんに「運営委員に提案してみます」と回答しました。冬休み明け、運営委員長の6年生の〇〇〇〇さんに〇〇さんから提案があった内容を伝えました。〇〇さんは1月16日（水）に急遽、運営委員会を開催し、話し合った結果、毎週水曜日の昼休みはバドミントンで遊ぶことを決定しました。右の写真は、昨日の昼休みの様子です。バドミントンで楽しく遊んでいる子どもがたくさんいました。



梨央さんのように「学校のこの部分を変えていきたい」「こういうことをみんなでやってみよう」と、学校生活を自分事として捉え、自分の力でよりよい学校づくりに参画しようとする姿勢は、とてもすばらしいことです。

学校教育目標の「か・が・や・く」の「か」は、目指す子ども像の一つである「**か**んがえる子ども（自ら考え、判断し、責任をもって行動する子ども）」の育成です。言い換えると「自律する力」を育成するということです。現代社会は、急速かつ大きく世の中が変化しており、新たな考え方や価値観が次々と生まれています。こうした現代社会の中では、自分の頭で考える人材が求められています。そのためには、自分は何がしたいのか、自分には何が必要なのかを考え、自己決定し、挑戦し、成し遂げるために行動する力が必要になります。失敗しながらもこうした学びを繰り返すことで、自己肯定感が高まり、主体性を育むことができます。その基礎・基本を培える場が学校なのです。

これまでの教育を振り返ってみると、子どもだからといって、何でも大人がお膳立てをし、横並びに取り組む教育活動が多かったように思います。大人がお膳立てしたものに一生懸命取り組み、うまくいっても、自己肯定感を高め、主体性を育てることはできません。激動の時代を生きていく子どもたちに「自律する力」＝「**か**んがえる子ども（自ら考え、判断し、責任をもって行動する子ども）」を育成するためには、授業をはじめとする学校の教育活動全体の中で子どもたちに自己決定させる場を、これまで以上に意図的に設定する必要があるのではないかと考えています。

〇〇さんの姿から、子どもたち自身が考え、よりよい方向性を見出していくことを重視した教育活動を展開していくことの大切さを改めて感じることができました。

※自己肯定感とは・・・「自分自身に満足している」「自分にはよいところがある」などの自己に対する肯定的な評価のこと

※主体性とは・・・自分の意志・判断で行動しようとする態度のこと